



PLATINUM FROZEN

JFS-B 規格は取引先との商談にも活かせる！



JFS-B 規格適合証明取得 CiX ホールディングス株式会社（冷凍食品の製造・販売）

東京都に本社を構える CiX ホールディングス株式会社様は、人材教育事業やクラフトフローズン事業といった様々な事業を展開しておられます。短期間でプロの料理人を育成する「飲食人大学」は大きな注目を集め、数多くのメディアからも取り上げられています。クラフトフローズン事業においては、大阪市の大正区と生野区の2ヶ所に製造拠点を設け、手作業や調理の手間を活用して最新の冷凍技術で製造することで極力添加物に頼らない冷凍食品である「PLATINUM FROZEN」シリーズを製造しています。最新の真空技術と $-60\sim-30^{\circ}\text{C}$ の液体急速凍結技術を活用することによって、食材の鮮度や食感、風味を維持し、衛生的に食品を冷凍することが可能となっています。比較的高単価な商品が中心ですが、その品質の高さが多くの顧客から支持されています。一般消費者に販売するだけでなく、飲食店やホテル、キャンプ施設に対しても卸売り販売を行っています。2024年2月に、大阪市生野区に位置するみゆき森工場において、JFS-B 規格を取得されました。本日は、現場で JFS-B 規格の取得に向けた動きを主導された、クラフトフローズン事業部の星野創本部長に取得の目的や今後のビジョンについてお話をうかがってきました。

—JFS-B 規格を取得された背景をお聞かせください。

星野本部長（以下星野）：素材や冷凍方法にこだわった高付加価値な冷凍食品を製造しているのですが、他社製品と比べて価格帯は高めです。そんな冷凍食品をより多くのお客様にご購入いただくためには、安全性の高さを証明する必要があると考えました。そのため、食品衛生のレベルの高さを証明するためのツールとして、何かしらの認証（適合証明）があった方が良いと判断しました。JFS 以外にも様々な認証（適合証明）がありますが、みゆき森工場の規模感などを考えると、JFS-B 規格がベストだという結論に至りました。簡単な認証を取得しても意味がありませんし、難しすぎても挫折してしまいます。そのような観点から見たとき、JFS-B 規格は非常にバランスが良いと感じました。また、日本生まれの認証（適合証明）の方が使い勝手が良いだろうという考えもありましたね。

—取得された JFS-B 規格をどのように活かしていこうとお考えですか。

星野：顧客からの信頼を獲得するためのツールとして存分に活用していこうと考えています。当社は創業してから日も浅く、有名企業に比べてブランド力も十分ではありません。そんな部分を補完してくれるのが JFS-B 規格だという認識ですね。食品衛生には絶対の自信を持っていますが「自信があります」というだけで取引先から信じてもらえるのは老舗だけでしょう。当社のように創業したばかりの企業にとって、食品製造の安全性の高さを担保してくれる JFS-B 規格のような認証（適合証明）は本当にありがたいですね。





—実際に JFS-B 規格の内容を確認した時の印象をお聞かせください。

星野：やはり、日本で作った認証（適合証明）なので、ガイドラインも含め非常に分かりやすかったですね。これは私の主観ですが、当社のような中小企業にとって使い勝手の良い仕様になっていると感じました。他の認証（適合証明）に比べても、分かりやすさ・使い勝手の良さの面で勝っているのではないのでしょうか。

—JFS-B 規格を取得したことに対する取引先からの反応はどうでしたか。

星野：取得して間もないのであまり周知していませんが、取引先との商談にもしっかり活用していくつもりです。何社もの取引先から冷凍食品の原材料を仕入れているのですが、JFS-B 規格のような認証（適合証明）を持っていると、取引先も「安全性にこだわる会社なのだ」と認識してくれます。取引先をけん制するわけではありませんが、こういう認証（適合証明）があると、商談でなにかを主張するときの根拠になると考えています。たとえば、「より厳密にチェックした原材料だけを購入したい」という主張も、根拠として JFS-B 規格があると、取引先の納得感も違いますよね。認証（適合証明）のメリットを対顧客で考えている企業がほとんどだと思いますが、対取引先（仕入れ先）の面でも大きなメリットがあると考えています。

—現場の社員の方の反応はいかがでしたか。

星野：当社で冷凍食品の製造に携わっている社員の多くは、当社に入社するまで食品製造の経験がありませんでした。ですから、認証（適合証明）を取得するという事に全く慣れていないのです。正直な話、あまりポジティブな反応を示してくれない社員もいましたね。しかし、現場の協力なくして認証（適合証明）を取得することは出来ません。社員に納得したうえで協力してもらおうと、認証（適合証明）を取得する目的やメリットを丁寧に説明しました。そうすることで、みんな納得してくれましたね。

現場の社員に丁寧に説明するというプロセスを省いてしまうと、取得に向けた取り組みがスムーズに進まないのではないかと考えています。面倒に感じて、現場の社員に納得してもらうための工程を惜しむべきではありませんね。

—今後、輸出事業を始めるビジョンもあるのでしょうか。

星野：将来的に輸出の事業をスタートしたいと考えています。当社の冷凍食品を輸出するには、JFS-B 規格に加えて、JFS-C 規格のような、さらに難易度の高い認証（適合証明）が必要です。今回 JFS-B 規格を取得したことで、なにかしらの認証（適合証明）を取得するノウハウが会社に蓄積しましたので、それを存分に活かし、さらに上の認証（適合証明）取得を目指したいですね。具体的な輸出先としては、マレーシアなどを考えています。

—JFS 規格について期待していることはなんでしょうか。

星野：もっと知名度を上げて欲しいですね。非常に使い勝手の良い認証（適合証明）だと思いますが、プロモーションが足りていないような気がします。もっと積極的に広報活動を行っても良いのではないのでしょうか。知名度が上がるという事は、取得を検討している企業を後押しすることにもつながると考えています。

—JFS 規格の取得を検討している企業にたいするメッセージをお願いします。

星野：食品安全や食品衛生に対する一般消費者の意識はどんどんアップデートされており、食品メーカーがなにかしらの認証（適合証明）を取得する必要性は以前よりもはるかに高まっています。JFS-B 規格は非常に使いやすく、それでいて信頼性も高い認証（適合証明）です。もしもなにかしらの認証（適合証明）を取得したいと考えているのであれば、JFS-B 規格を前向きに検討しても良いのではないのでしょうか。

—本日はありがとうございました。



Company Profile

社名 CiX ホールディングス株式会社

代表 横山 創一

住所 みゆき森工場

〒544-0034

大阪府大阪市生野区桃谷 5-5-37 いくのパーク C 棟 2 階

創業 2020 年 2 月 18 日

URL <https://www.cix-hd.com/>